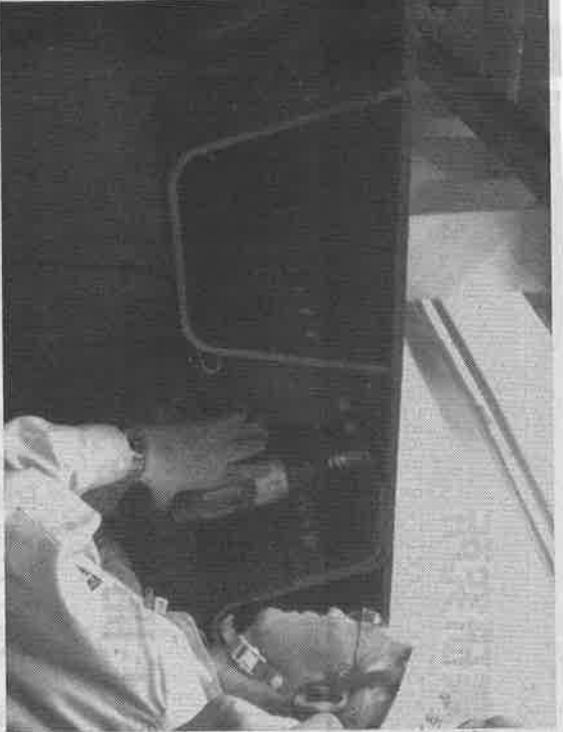


道路橋維持管理で連携

京阪神の中小
23社が研究会
工法など開発狙う

東部大阪は中小企業の
集積により、異業種連携
が活発な地域だ。けして
成功例は多くはないが、
先人たちの経験を糧に新
しい挑戦が続く。

で発足した。国に約9
万橋ある道路橋の維持管
理の仕事は中小企業に向
いていると見て、製品や
工法・サービスの開発を
狙う。橋梁の維持管理工
法に詳しい坂野昌弘関西
大学教授をリーダーに、
近畿大学、鉄道橋コサ
ルテイング業のピーエム
路工側の施工だけでなく
、セグメントの目的。このタ
ップホルトを巴製作所
（兵庫県尼崎市）をばじ
め東部大阪の企業が連携
で製作した。これまでに
は23社が参加している。



製品化している12、13、14径
のタップホルトを応用
し、大い16、17径を作っ
た。特殊な鋼を使い、床
獲得して14年度内に成果
物を生む計画だ。

呼びかけたのが大西正曹
関西大学名誉教授。東大
阪エリアを中心に各地の
中小企業の調査・分析の
経験が長く、異業種交流
の学生らが卒業研究で実
会にも多数かかわった。
途中で尻すぼみになる事
例も多く体験している。
立ち上げて約10カ月、
仕事が見えてきた会社
を持ちこんだの会社で温
接による補修作業は作業
の負担が大きいことが
、かねて坂野教授は宗
仕事で東大阪の中小
ルト利用を提唱してき
が、にやむとしようだ
だ。

会員は現在4グループに分かれて橋メ
ンテナンスに役立つ研
究会として活動で早
製品開発を目指して、研
究会組織も仕事管理の組
合は、先兵後のタッ
ップホルト、後に続く
のは現場点検で手間
のかかる事前の清掃
見ている。
で役立つコーレス
掃除機。コンクリー
な目標として「国内で中
小破片でも吸引する
掃除機は、市販エ
ンジンを活用しながら
と示す。同研究会の開
発成果は知財管理した上
などに中小企業の工
場で各地域に供与して、そ
れを使って各地域中小が
橋を管理する市町村から
関西大の実証試験で
タップホルトを施工
する坂野教授
している。